

# 分苑たより

## なごみ

大本  
名古屋分苑

### 分苑長

### 文月 月次祭挨拶

サルートン

皆様こんにちは

文月の月次祭に足元が悪い  
中ご参拝頂きありがとうございます。

梅雨明け宣言が発令された  
後、全国各地で大雨、特に九  
州では線状降水帯で大雨の被  
害が出ています。

名古屋分苑と三河本苑とで  
東海豪雨また東日本を襲った  
大震災また今後発生するであ  
ろうと思われる南海トラフの  
兆しがあるとされるため大三  
災・小三災鎮静祈願祝詞を朝  
拝時に奏上させていただきます。

新型コロナウイルス感染者  
は、愛知県では四桁から三桁  
に下がってまた四桁に戻って  
の繰り返しでしたが七月に入  
り急激に感染者の数が全国的  
に増加しています。

### 新型コロナウイルス早期終

息祈願祝詞の中で「宣信徒等

この御前に集いて天津真言  
の祝詞もて」という言葉があ  
りませんが宣信使・信徒は大神  
様の前で大本祝詞によって、  
天津祝詞・神言を奏上しなさ  
いという文言です。

大神様に祈願して早期終息  
して元の生活に戻りたいと願  
うばかりです。

今日二十三日・二十四日と  
教本三級認定講習会を開催い  
たします。

来年の宣信使の新任・昇進  
等での必須項目になっていま  
すので三密に配慮して行いま  
す。

水鏡の中の三杓子は天国と  
いう文章で「御供米を盛るに、  
神様には三杓子と定められて  
いるのは、第三天国に一杯、  
第二天国に一杯、第一天国に  
一杯、都合三杯盛るわけだ。  
八衢は二杯、地獄は一杯であ

る。

死後天国に昇らんことを稀  
うものは、ご飯も三杓子盛つ  
て食べるようにするのがよい  
のである」と記載されていま  
す。

あと二週間で本部では瑞生  
大祭が執行され、今年は直心  
会のバザーが開催されます。  
名古屋分苑でも瑞生大祭遥拝  
祭を十一時から行います。

お玉串は今日お出しになら  
れた方の分は大祭当日に本部  
へお持ちいたしますが、その  
後の方は後日送金させていた  
だきます。

八月には葬祭研修会を講師  
出口拓生様・九月には祭式講  
習会を講師、新宮幸太郎様を  
お招きし東海教区の方達もお  
誘いして開催いたします。参  
加のほど宜しくお願いいたし  
ます。

雨が止み天気が回復すると  
本格的な真夏が訪れます。皆  
様には、熱中症等また新型コ  
ロナウイルスに感染しないよ  
うに注意して生活を過ごして  
下さい。

本日の参拝誠にありがとうございました。

※ 教本三級認定講習会はコ  
ロナ感染防止のため、中止  
になりました。

### 行事予定

八月二十一日(日)

月次祭 午前十時半より

八月二十七・二十八日(土・日)

東海教区 葬祭研修会

九月三日(土)

月始祭 午後一時半より

### 行事報告

● 月始祭

七月二日(土)

参拝者 十六名

斎主 天野 芳幸

祭員 畠山 茂

進行 堀 和子



祭典終了後、妹尾特任によ  
る講話「お土の心」を受講し  
た。

● 月次祭

七月十七日(日)

参拝者 三十三名

斎主 近藤 哲史

祭員 日比 達朗

祭員 青山 将士

典礼 小林 清人

伶人 飯田 直美

伶人 長谷川 美枝

伶人 岡田 幸子

進行 伊藤 良則



忍び草

城北分所 山田勝彦 毘古

享年八十二歳

令和四年七月二十一日 帰幽

謹んで哀悼の意を表します

●東海教区直心会 研修会

六月二十六日(日)に東海

教区直心会研修会が、午前

に天恩郷みろく会館大ホールに

て「生食(お土・農・人)」

と題して駒形康義先生の講話、

午後には本部より車で約十数分

のとこりに位置しています出

雲大神宮(元出雲)への参拝

というプログラムで開催され

ました。

講話では身近な食に関する

ことでもあり、とても分かり

やすく、興味深く聞かせて頂

きました。

出雲大神宮では正式参拝を

させて頂き、宮司様より神宮

の説明をいただき、本部の西

田昌史先生からも大本との深

いかかわりなどのお話をして

いただきました。

本殿裏の御神体山(御影山

は国常立尊のお鎮まりになら

れる聖地)より湧く「神水

「真名井の水」を参加者の方

に分けて下さいました。

多くのお蔭を頂き、有意義

な一日を過ごすことができました。

参加人数 四十三名

うち名古屋分苑 六名

高嶋 善雄 高嶋フミ子

高嶋 徳美子 森 悦子

加藤登茂栄

直心会長 堀和子 報告



出雲大神宮について

特任宣伝使 堀 宜雄

富士文庫によると今から六千数百年前に富士山麓に開かれたと言われる「富士王朝」の存在を中心に天地開闢の神代からの歴史を綴っている。

日本を最初に治めた王(初代神皇)は国常立尊。諱は「農立比古尊」(物語農立比古命)とあり農業で国を立て安らかに平らかに治しめさんとした神

富士高天原の主権を国狭穂尊(弟)に譲り国常立尊は「田場国真伊原」に都を築きこの地に「桑田宮」と呼ばれる天の御舎を建て遷り住んだ。

「田場」は丹波(古記録は田庭)と書いてタバと読むこともある。国常立尊は桑田宮を建立され理想的な政治を行い、死後は田羽山の陵に葬られ、その後イザナギ・イザナミの二尊が麓に祠を建てて、

国常立尊御夫妻の神霊をぞ祀らせ給う、之を豊受大神という。天照大御神は勅命を以て出雲国杵築宮より祖佐男命の皇女出雲毘女命を田場国真伊原の桑田の宮に招きて豊受大神の宮を守護まします。

神遊りまし後、田場山に葬る。贈名三穂都毘女命は後世、祠を建て其神霊を祀られ、出雲大神とぞ称しける。

「保津」の地名も命の名に因んだものであろう

「富士文獻」には国常立尊は豊受大神と同神異名であることが記されている

亀岡市千歳町出雲にある丹波国一の宮・出雲太神宮は出雲神社・元出雲・千年宮と称される。(亀岡駅から6K)

ご祭神は大国主命、三穂津姫命(多紀理姫) 大国主命の妻神)の二柱である。

社殿(重要文化財)は、三間社流造である。創建年数がわからないほど古いお宮 縁起書によると本殿の背後にそびえる御影山がもとと神体

山として太古から崇敬を集めていた(古来より国常立尊の鎮座する地として禁足地とされた)

崇神天皇の時代に大和の三輪山が崇められるようになったが、御影山はその時代よりうんと古くから出雲の大神と敬われる山としてきこえていたようである。

後に島根県の出雲大社に鎮座されることになることから「元出雲」という意味をもっている。

聖師様が神宮で詠まれたお歌(真如の光、大正十五年六月二十五日号)のなかの一首

「仰ぎ見るさえも長き御影山は国常立の神の隠れ処(かくれが)」

出雲神宮の代々の宮司は丹波の名家・広瀬族から鎌倉時代に養子をもらうまでは「千家」を名告っておられた。天孫族の流れをくむと云われる

「千家」が初代宮司となり、現在に至っている。

※次回回は「大本と神宮との繋がりについて」連載します。